

小伊勢の坂東、長井の坂東の三舊家を、能登の三坂東というた。坂東はもと番頭で、村役人の稱呼であらう。

サンピン 三品 加賀藩で馬廻組・定番馬廻組・組外組に属する士を御譜代三品の侍と云うた。この外に小將組があり、人持組と八家とは更に高祿の家柄である。

サンピン 三品 藩侯の行列に加る三種の武器を御先三品というた。長柄・筒・弓がそれである。享和二年八月廿五日の記に『中將様御入國被遊候節、御道中御先例之通り三品當番非番共相建、御鐵炮廿五挺、御弓二十張、御長柄二十筋、非番御鐵炮廿五挺、御弓二十挺、御長柄十本也。』とあるも即ち是である。

サンピンゴバンニ 三品御番人 三品の侍即ち御馬廻組・定番御馬廻組・組外組の士は何れも平士であるが、その中特別の職を有せざるものは、常に城内に交番宿衛する。それを三品御番人といひ、足輕等の御番人と區別した。

サンブギヨウ 三奉行 寺社奉行・公事場奉行・御算用場奉行をいふ。多数の奉行中で樞要の地位を占めるものであつた。

サンブツガタ 産物方 元文二年九月二日横山大和守貴林が遠慮を命ぜられた時、産物方御用は御用番へ引取るとあるを以て初見とする。次いで安永七年四月村井又兵衛長登が産物方御用主附を命ぜられたが、天明五年九月産物方を廢し、文化十年九月十四日村井又兵衛長世が再び之を命ぜられ、十一年五月十七日御免、御用方を勝手方主附で取捌くやうに命ぜられ、同年六月再び廢した。蓋し從來の産物方は、安永七年長登に對する令に御領

國山林の産物調べ方とあるが如く、極めて狹範圍のものであつたが、次いで文久三年に至り、その主附が何人であつたかを詳かにせぬが、又産物方を興して規模を擴張し、諸般の産業を奨励して上下の福利増進を圖るを目的とすることとし、加賀では金澤・小松、能登では羽咋、越中では福野・高岡・魚津等に産物集會所を置き、集會所の下に若干の支局を設け、その地の商事に熟練する者數人を擧げて事務員とし、工商を督勵して製産に努めしめ、資金を貸附し、製品を買上げ、販路を擴張し、品質を檢査し、收益の少きものは之を保護し、利得の多きものは之に課税するの法を採つた。次いで産物方の規模大に整うたから、慶應元年帆船啓明丸を購入して漕運の用に當て、獨藩内物産の振興を見たのみならず、府庫亦從つて収入の増加を得た。

サンボウイハダケ 三方岩嶽 石川郡の東南にあつて、越前大野郡との境界に聳える。高さ一七一六米。地質石英粗面岩。

サンボウイハダケ 三方岩嶽 石川郡の東南にあつて、越前大野郡との境界に聳える。高さ一七一六米。地質石英粗面岩。

サンボウイハダケ 三方岩嶽 石川郡の東南にあつて、越前大野郡との境界に聳える。高さ一七一六米。地質石英粗面岩。

サンボウイハダケ 三方岩嶽 石川郡の東南にあつて、越前大野郡との境界に聳える。高さ一七一六米。地質石英粗面岩。

サンボウイハダケ 三方岩嶽 石川郡の東南にあつて、越前大野郡との境界に聳える。高さ一七一六米。地質石英粗面岩。

サンボウイハダケ 三方岩嶽 石川郡の東南にあつて、越前大野郡との境界に聳える。高さ一七一六米。地質石英粗面岩。

サンボウイハダケ 三方岩嶽 石川郡の東南にあつて、越前大野郡との境界に聳える。高さ一七一六米。地質石英粗面岩。

サンボウイハダケ 三方岩嶽 石川郡の東南にあつて、越前大野郡との境界に聳える。高さ一七一六米。地質石英粗面岩。

圓理の解釋を試みたものである。

サンボウゲンリウウシヨクカチツ 算法源流諸約卷帙 一册。京都大橋精七郎から、中根系關流の法を受けた金澤の算者和田耕藏が、關孝和の著した約術の解説を試みたものである。

サンボウジ 三寶寺 金澤小川町に在つて、弘法山と號し、日蓮宗に屬する。寛永二十年妙成寺十七代日傳小松に之を創立し、前田利常の生母壽福院の位牌を置いたが、萬治二年金澤なる今の地に移轉した。

サンボウシヨウ 算法指要 ↓チュウサンシキ 籌算式。

サンボウシヨウモン 算法初問 一册。文政六年石川郡南笹塚の人で、三池流の算者であつた笹塚有義の著す所。圓内正多角形の一辺の長さを求める法・方廉術・圓積廉術等があり、その末に用術目錄として、生る歳の干支を知る法・齒の痛を止むる法・頭痛を止むる法・晴雨を知る法・山の高さや谷の深さを知る法等の項目を羅列してあるが、その説明はな

サンボウシヨウ 算法指要 ↓チュウサンシキ 籌算式。

サンボウシヨウ 算法指要 ↓チュウサンシキ 籌算式。

サンボウシヨウ 算法指要 ↓チュウサンシキ 籌算式。

サンボウシヨウ 算法指要 ↓チュウサンシキ 籌算式。

サンボウシヨウ 算法指要 ↓チュウサンシキ 籌算式。

然數の同乗巾の積の研究である。

サンボウトクシ 算法得此 三册。天明六年三池流の算者宮井安泰の著。塵劫記風のもので、日用の諸算法を述べてある。

サンボウババ 三方馬場 加賀・越前・美濃三ヶ國に在る白山の神宮寺、即ち加賀の白山寺・越前の平泉寺・美濃の長瀧寺を三方馬場と云うた。白山記に、『天長九年壬子三方馬場開。即從三方馬場參詣御山一遺俗。恒沙非。』といひ、又『從三方馬場參詣輩。皆其馬場別當捧御幣令申事。云々。三箇馬場者。加賀馬場越前馬場美乃馬場是也。』ともある。

サンボウヤマ 三方山 石川郡に屬する。加賀古跡考に、他の三方山は奥池村、倉谷三方山は二俣村で、同名の兩山あることを記し、若しくは一山を兩面から見たものでなからうかと疑うてゐる。しかし、池の三方は今いふ奥三方、倉谷三方は今いふ口三方で、矢張り別の山である。

サンボウヨウホウカジヨウ 算法要法五箇條 一册。文政七年瀧川有父の著。この術を習得したものは初めて同流算法の免許を受けるので、その五箇條は即ち同規法・釋鎖法・兩式法・分式法・加減法である。

サンマイカベ 三枚壁 白山の北方より出る中川の左岸に在る。白山遊覽圖記にいふ。石壁高さ數百尋、疊んで三段を爲す。壁下別に高さ七八丈の巨石があり、その北面の三四寸の罅から温泉噴湧し、天氣の陰翳雨を催す時に當つては、泉勢最も猛烈で、直に對岸の石壁を射る。又この石の頂上及び西面の罅からも温泉を出す、勢ひ北罅ほどではない